





# 世界・日本農業遺産保全計画

## 取組一覧

宮城県大崎地域

取組	ページ	実施者	実施時期					指標	
			R4	R5	R6	R7	R8	現状	目標
<b>1 食料及び生計の保障</b>									
(1) 農家の高齢化、後継者不足による農業基盤の脆弱化									
ア 新規就農者の確保・育成	7	市町、県、JA	○	○	○	○	○	新規認定農業者数(年度実績) 194人(R2)	330人
イ 担い手への農地の集約・集積化	7	市町、県、JA	○	○	○	○	○	農振農用地ほ場整備面積(年度実績) 23,886ha(R2)	24,800ha
ウ 世界農業遺産ブランド認証制度の推進	7	協議会、JA、県、市町	○	○	○	○	○	認証件数(年度実績) 407件(R3)	650件
(2) 自然と親しむ機会の減少による農業への関心度の低下									
ア 農業後継者の育成	8	協議会、県、大学、市町、NPO	○	○	○	○	○	農業大学校及び農業高校等への世界農業遺産に関する講義の実施(年度実績) 7件(R3)	10件
<b>2 農業生物多様性</b>									
(1) 二次的自然環境の悪化による生態系への影響									
ア 自然共生型農業の普及と機運醸成	8	JA、協議会、県、市町、NPO	○	○	○	○	○	有機JAS認証取得面積(年度実績) 190ha(R2)	240ha
イ 生きものモニタリング普及	9	協議会、JA、大学、県、市町、NPO	○	○	○	○	○	米のブランド認証農家数(年度実績) 378件(R3)	500件
ウ 次世代育成プログラムの拡充	9	協議会、県、市町、NPO	○	○	○	○	○	おおさき生きものクラブ参加者数(年度実績) 280人(R3)	450人
			○	○	○	○	○	(仮称)大崎耕土GIAHSアカデミープロジェクトの実施検討未実施(R3)	開設
エ ため池等における希少生物の保全対策	9	市町、改良区、県、NPO	○	○	○	○	○	シナイモツゴ等希少生物の生息 目視確認(R3)	目視確認
(2) 伝統的な農作物の栽培減少									
ア 遺伝資源の保全と販路の多角化支援	10	協議会、JA、生協、地元企業、県、市町	○	○	○	○	○	伝統野菜の栽培面積(年度実績) 0.64ha(R3)	0.90ha

取組	ページ	実施者	実施時期					指標	
			R4	R5	R6	R7	R8	現状	目標
<b>3 地域の伝統的な知識システム</b>									
(1) 水管理技術の継承体制の脆弱化 									
ア 巧みな水管理基盤の保全	10	協議会、県、市町、改良区	○	○	○	○	○	水管理基盤組織のカバー率(年度実績) 64%(R2)	70%
			○	○	○	○		現存する水管理基盤及び農耕文化の調査と伝承のための民俗誌の作成 未作成(R3)	作成
(2) 冷害適応技術の継承体制の脆弱化 									
ア 本地域特有の栽培技術の継承	11	県、協議会、市町、JA	○	○	○	○	○	栽培技術講習受講者数(年度実績) 2,419人(R2)	R4~R8累計 20,000人
<b>4 文化、価値観及び社会組織</b>									
(1) 農耕文化の継承体制の脆弱化 									
ア 農耕文化の継承と価値共有の仕組みづくり	11	協議会、県、市町、NPO、改良区	○	○	○	○	○	語り部育成人数(年度実績) 48人(R3)	R4~R8累計 250人
			○	○	○	○	○	農耕文化の担い手間の交流機会の創出 未実施(R3)	交流会実施
			○	○	○	○	○	【再掲】現存する水管理基盤及び農耕文化の調査と伝承のための民俗誌の作成 未作成(R3)	作成
(2) 食生活の外部化、核家族化による食文化の風化 									
ア 食文化の継承者と発信拠点の育成	12	協議会、県、市町、JA	○	○	○	○	○	大崎耕土の食文化普及イベントの参加者数(年度実績) 588人(R3)	R4~R8累計 4,000人
<b>5 ランドスケープ及びシースケープの特徴</b>									
(1) ランドスケープの価値の埋没による保全機能の低下 									
ア フィールドミュージアム構想の推進	13	協議会、県、市町、NPO	○	○	○	○	○	GIAHSツーリズム参加者数(年度実績) 0人(R3)	200人
(2) 住環境の変化に伴う居久根の伐採 									
ア 居久根景観の保全と活用	13	協議会、市町、NPO、森林組合	○	○	○	○	○	居久根に対する保全支援件数(年度実績) 3件(R3)	15件

取組	ページ	実施者	実施時期					指標	
			R4	R5	R6	R7	R8	現状	目標
6 変化に対するレジリエンス									
(1) 気候変動への対応 									
ア 農業遺産資源を活かした新たなレジリエンスの可能性検討	14	県、市町、協議会、NPO	○	○	○	○	○	田んぼダム実施面積(年度実績) 357ha(R3)	1,530ha
イ 既存の農業遺産資源が持つレジリエンスの維持	14	市町、県、協議会、NPO	○	○	○	○	○	野火の実施 コロナ禍により中止(R3)	実施
			○	○	○	○	○	【再掲】居久根に対する保全支援件数(年度実績) 3件(R3)	15件
ウ 自然共生型農業の普及と機運醸成【再掲】	14	JA、協議会、県、市町、NPO	○	○	○	○	○	【再掲】有機JAS認証取得面積(年度実績) 190ha(R2)	240ha
7 多様な主体の参画									
(1) 農村地域の担い手の減少 									
ア CSAの推進	15	協議会、市町、農協、NPO	○	○	○	○	○	CSA交流人口(年度実績) 460人(R2)	R4～R8累計 7,500人
イ 多様な主体の参画による居久根の保全	15	協議会、市町、県、地元企業	○	○	○	○	○	企業等による居久根保全件数(年度実績) 0件(R3)	5件
ウ 農泊の推進	16	協議会、市町、県、NPO	○	○	○	○	○	農泊中間支援組織の確立 未確立(R3)	確立
8 6次産業化の推進									
(1) 農業所得の低迷 									
ア 6次産業化の支援	16	市町、協議会、県、地元企業	○	○	○	○	○	6次産業化商品開発件数(年度実績) 19件(R2)	R4～R8累計 100件
イ 農産加工品の認証制度の拡充	17	協議会、市町、県、農協、NPO	○	○	○	○	○	農産加工品の認証件数(年度実績) 6件(R3)	45件